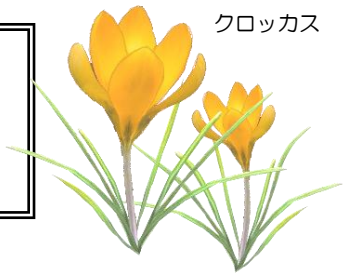
Taijyu ～大樹～

2018年3月14日

香川大学教育学部
附属坂出中学校１年団



送別芸能祭でうまれる１年団の「ものがたり」

卒業式の前日、60 年以上続くといわれる附属坂出中学校伝統の送別芸能祭が行われました。この学校に赴任した６年前、学年末テストが終わってからの１週間ちょっとでこんな劇を仕上げてしまう生徒の力に感動したのを今でも覚えています。今年は、卒業する３年生たちもやったミュージカルに挑戦。台詞を覚えて演じるだけでも大変なのに、歌と踊りまで…。正直大丈夫か？と不安になりましたが、それをやってしまうのが、みんなのすごいところ。驚異の追い込みで、素晴らしい劇を完成させました。最後の合唱も数ヶ月前の文化祭よりも数段レベルアップ。歌に乗せて、みんなの想いが伝わってきました。

さて、みなさん、この 60 年以上も続く送別芸能祭、何のために行われているのでしょう。「３年生に感謝の気持ちを伝えるため」と答える人が多いのかな？もちろんそれもあると思いますが、先生は、もう１つ別の意味を感じています。それは「変わるため」。「変わる」＝「進化する」と言い換えてもいいかもしれません。今までのやり方が通用しないような”試練”に突き当たった時、生物は新たな突破口を見出すため、自らを変化させ、生き延びてきました。送別芸能祭というのは、みんなに与えられた”試練”だと思います。その試練をくぐり抜けた今、君たちの中で何が変わりましたか？この行事を通して、何かに気づき、自分のものの見方や考え方、感じ方など、何かが変わった。そんな送別芸能祭であってほしいなと思います。

最後に、送別芸能祭の振り返りをみなさんに書いてもらいました。そのなかのほんの一部ですが、紹介します。

●2 年生はやっぱりすごい

初めての送別芸能祭をやってみて、私は良くできていたと思います。自分の中では 100 点のものが作れたと思うし、大道具も壊れる事なく劇を終えることができたので、良かったです。役者や照明や音響も初めて合わした時よりもすごく上手になっていて、すごいなと思いました。小道具や衣装も最後まで壊れる事なく終わったので、良かったと思います。２

年生の劇をみて、やっぱり２年生はレベルが高いなと思いました。背景を何枚も作っているところや before after で片付けをあえて見せるところやキレキレのダンスを入れるところ、すべてがすごいなと思いました。来年は、自分たちがあんなすごい劇ができたらいいです。

●全員の力が集まっての成功

　今回、私は主役と指揮者という大きな役を２つ任せてもらいました。プレッシャーや緊張、練習中のハプニング、台詞が飛んでいってしまったなど色々失敗もありました。ですが、本番は失敗もなく、３年生にも楽しんでもらえて、とてもうれしかったです。ドリーミングではなかなか台詞が覚えられず、本番の１週間くらい前まで台本を手放せませんでした。ですが、家や学校で練習するうちにだんだん「チルチル」になりきれるようになりました。DVD を 10 回くらい見て、それぞれの役はどんな性格なのか、この台詞はどのような感情を込めればいいのか、どう動けばいいのかなど、自分なりに考えて役作りをすることができました。限られた材料で工夫しながら作ってくれた大道具、小道具、衣装、夢のような世界を演出してくれた音響・照明、思いのつまった掲示やエンドロール、全員の力が集まって成功したと思っています。本当に３年生との送別にふさわしい「ドリーミング」だったと思います。

●改めてこの学校のすごさがわかった

　はじめての送別芸能祭で、この学校のすごさが改めてわかりました。短い時間で自分たちだけの劇を作るのは大変だったけど、とてもおもしろかったです。僕は当日は座ってみいていたけど、自分たちが作った道具が実際に使われているのはとてもうれしかったです。そして、朝も、放課後もたくさん練習していた役者の人たちはすごいなと思いました。最後は感動しました。でも、２年生の劇を見て、大道具がうまいなぁと思ったので、来年大道具を担当したら、今の２年生に負けないようなものを作りたいです。

●やっぱり協力は大切

　はじめての送別で、私は大道具を担当しました。大道具の中でも重要な背景を描きました。最初立てたスケジュールも思い通りにならず、とても苦戦しました。でもリーダーや背景担当の友達と「ここはこうすれば解決できるんじゃない？」とか「こうしよう」と話し合って、考え、解決していくことができました。やっぱり協力は大切だなぁと思いました！本番は、役者を盛り立てよう、みんなで成功

させたいという気持ちを 120 人全員で形にしました。途中、大道具だけでも様々なハプニングがあって「どうしよう？」となったけど、役者の人が解決してくれたり、自分たちで解決したりして乗り越える事ができました。来年、伝統ある送別がもう一度経験できるので、今度は他の仕事にも挑戦し、今年のように 120 人で成功させたいなぁと思いました。とても良い思い出になりました。来年も頑張りたいです。

●３年生のような先輩になっていきたい

　初めての送別芸能祭だったけれど、大成功でした。これまで放課後遅くまで一生懸命練習してきたので、結果が出たのだと思いました。僕は、ステージ下の照明で、役者に合わせて、どのような色やどんなタイミングで照らすかなどを仲間と相談して工夫していきました。最初は何をしたらいいかわからなかったけど、照明全員でビデオを見ながら、色を決めていったので、次第にわかっていきました。劇だけでなく合唱の「ぜんぶわすれない」も今まで練習してきた結果が出たので良かったと思いました。３年生も感動していたと思うので、嬉しかったです。３年生との思い出はこれからも忘れずに、３年生のような先輩になっていきたいと思います。

●送別で感じた自分の成長

　私は送別芸能祭でも合唱でも伴奏でした。今まで歌の人と一緒に何度も練習してきました。伴奏は“誰かに合わせる”という作業なので、協力することの大切さがわかりました。また、成長できたこともありました。それは“今回はじめて作曲をし、それを人前で披露する”ということです。作曲する力もついた上、それを人まで披露するという勇気もつきました。今までは、人前で何かを披露するのは恥ずかしいと思っていたけれど、今回の行事を通して、自信をもって演奏できるようになり、とても嬉しかったです。さらに楽しかったこともあります。みんなで協力して「音録り」したことです。みんなで「この音かな？合ってるかな？」など、楽しみながらできました。改めてみんなが協力してくれて嬉しかったし、良かったです。来年も頑張るぞ！

●完璧よりも大切なことがある

　送別の準備は本当に短期間しかなくて、前日までバタバ

送別芸能祭　合唱プロジェクトリーダー

タしていました。こんなので大丈夫なのかなぁと思っていました。でも、本番前に中川君のあいさつで「成功は完璧じゃなくて、一生懸命すること」と言われて、心にグサッときました。ずっと「完璧じゃなきゃいけない」と思っていたけど、それよりも大切なことがあることに気づかされました。１年団として１つのことに全員で力を合わせてやれたから送別は成功したと思います。私は、音響として役者を支える立場だったのですが、きちんと自分の役割を果たせたと思います。そして、何事も一生懸命すれば成功するんだということがわかりました。私にとって、送別はそんなことに気づかされた大切な思い出となりました。

送別芸能祭　プロジェクトリーダー

●３年生からの「ありがとう」

送別芸能祭を通して、僕は積極性が身についたかなと思いました。小学校でも劇はしていたけど、これほど緊張したのは初めてでした。その中で僕は積極的に自分ができる事に取り組めました。この経験を他にも生かしたいです。また、僕は大きな達成感も得ることができました。この達成感は衣装、小道具、大道具、音響、照明、報道、そして役者が心を一つにして劇を成功させたからだと思います。３クラスが協力して作ったことは初めてなので、とてもいい思い出になりました。もうすぐ２年生になって２年団としてまた行事ができることがとても楽しみです。最後に、３年生のある人の言葉で心に残っているのが「よかったぞ。ありがとう。」です。僕は、この「ありがとう」という言葉を聞いて、今までの思い出すべてを忘れてほしくないという願いが伝わってくれたと感じ、最高に嬉しかったです。